

令和7年9月3日

中標津町議会議長 後藤 一男 様

中標津町議会議員 平山 光生

研修報告書

以下の視察について、次のとおり報告します。

- 1 視察名 議会運営委員会道内視察研修
- 2 視察先 芽室町議会
- 3 視察日 令和7年8月6日（水）
- 4 視察事項 議会基本条例について
- 5 成果

芽室町議会は「わかりやすい議会、開かれた議会、行動する議会」のもと議会基本条例を制定し、毎年2月に議会評価・委員会進捗工程評価を実施していました。また、通年議会をフル活用した予算・決算審査と連動させた政策サイクルを確立し、委員会の活性化が行われていました。

さらに、議会活性化計画書を作成し、それを町民に公表することによって議会の見える化を加速、行政の政策に対し委員会としての意向を提言書として提出する等、計画が見えることによって委員会のみならず、議員個々の底上げも行うことができていると感じました。本町議会も委員会単位で計画を作成していますが、委員会としてももっと詳細に記載した目標を作成し、議会でも計画していくべきであると思います。

また、議会モニターに関しても議会で聴取したいことばかりではなく、町民からのこうしてほしいと言う意見の聴取にも力を入れていて、ひとつひとつホームページ上で回答をするなどとても丁寧に対応していました。町民の意見が反映されると言うことが議会の信頼につながり、次回以降も意見が上がってきやすい環境を作り出していると感じました。



芽室町議会での視察の様子

そして、議員や計画に必要な研修や講習についても適宜行われ、曖昧になっていることは期の若い議員が全員協議会などの場で説明を行うことで定着を図っていることは、

個々の理解を高める意味でも本町議会でもぜひ取り入れていきたいと感じました。

また、講習等を通じて有識者である講師に議会サポーターを依頼し、いろいろな方とつながりを大事にしていくことで相談できる関係性の構築はぜひ取り入れていきたいと感じました。

- 2 視察先 札幌市議会
- 3 視察日 令和7年8月7日(木)
- 4 視察事項 議会基本条例について
- 5 成果

札幌市議会は「開かれた議会の実現」のもとに議会基本条例を制定していました。

基本条例制定にあたり、市民意見募集を実施し、12名80件の意見提出の多くは主に市民にわかりやすい言葉を使うことや明確な意思表示を行ってほしいという意見であったそうです。やはり議会用語・行政用語の説明を掲載することも大切ですが、市民に伝わりやすい言葉を使用すること、曖昧な表現ではなく必ず実行すると意思を明確にしていくことが市民の理解を得やすいのではないかと感じました。

また、議員の文書共有にはチャットアプリ Microsoft Teams を導入し、委員会をオンライン開催する際のツールの1つとしても活用できるよう規定していました。現時点で開催実績はないようですが、感染症対策等において活用できる1つのシステムであり、委員会の開催を少人数で行うことよりは、こういったオンラインを活用して委員会を進めることにより感染を防止するだけでなく、委員会の活性化を滞らせることがないため、本町議会でもすぐに活用すべきと感じました。

本町議会では会派制がとられていませんが、委員会内での活性化や協議を行うこと、そして正副委員長会議を通して議員全体の合意を図っていくためには、委員会内でしっかりとした合意形成を常に確立させておくことが必要だと感じました。



ホールのような札幌市議会議事堂

- 2 視察先 鹿追町議会
- 3 視察日 令和7年8月8日（金）
- 4 視察事項 議会基本条例について
- 5 成果

鹿追町議会は「住民参加で「見える」議会づくりをもとに議会基本条例を制定していました。制定から10年以上経過していますが、基本条例に沿って「まちなか会議」や「カフェでひとこと」等町民との意見交換の場を積極的に設け、議会広報を年8回発行と町民との意思疎通を図る体制を整備と常に前向きな議会運営を行っていました。特に、まちなか会議等の意見交換の日程を年度当初に年間スケジュールとして公表することで、町民の利便性も考慮されていました。常連の方が多いようですが、移住者や若い方も参加することがあるとのことで、常に町民に対する説明責任を果たす場を設けていることは、本町議会においても必要ではないかと考えます。



鹿追町議会での視察の様子

また、令和7年3月の定例会から栗山町のように、座学での議会の取り組みや議員活動の説明を皮切りに全5回程度の議員塾を開催していました。予算と決算に合わせて同様の内容で年2回開催予定だそうです。参加は1回のみでも良いというところが、とても参加しやすいと感じました。



鹿追町議会の皆様と

本町議会でも議員のなり手不足を考慮し、検討の必要性を感じました。